

平成20年9月第2四半期

会社説明資料

平成20年12月



株式会社 大谷工業

OTANI KOGYO CO., LTD.

(JASDAQ・5939)

会社のプロフィール

商号	株式会社大谷工業 OTANI KOGYO CO.,LTD.
本社	〒141-0031 東京都品川区西五反田7丁目22番17号
代表者	代表取締役社長 芝崎安宏
設立	昭和22年6月30日
資本金	6億5,520万円
売上高	2,692百万円(20年9月第2四半期)
従業員	177名(20年9月30日現在)

会社の沿革

昭和21年2月	当社の前身、大谷重工業株式会社富山支社小杉製作所として創業
昭和22年6月	株式会社大谷工業小杉製作所として設立
昭和29年5月	社名を大谷工業株式会社と改称し、小杉研砥工業株式会社を吸収合併
昭和45年10月	本社を東京都品川区西五反田7丁目22番17号T0Cビル内に移転
昭和60年7月	鹿沼工場 頭付きスタッドのJIS規格認可
昭和63年3月	鹿沼工場 六角ボルト・六角ナットのJIS規格認可
昭和63年10月	富山工場 溶融亜鉛めっき加工技術JIS規格認可
昭和63年11月	日本証券業協会へ店頭登録
平成元年7月	本社を東京都品川区北品川5丁4番14号T0C北品川ビルに移転
平成元年9月	櫻井鐵工株式会社を合併し、社名を大谷櫻井鐵工株式会社と改称
平成8年9月	本社を東京都品川区西五反田7丁目22番17号T0Cビル内に移転
平成8年10月	社名を株式会社大谷工業と改称
平成11年6月	鹿沼工場 ISO9001認証取得
平成11年9月	富山工場 ISO9001認証取得
平成16年4月	環境関連製品販売を開始
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場

事業内容

- ・配電・通信線用架線金物、CATV・防災無線用金物、鋏螺の製造・販売
- ・送電用・無線用鉄塔、屋外鉄構、架台、フェンスの設計・製造・販売
- ・スタッドの製造・販売・施工
- ・溶融亜鉛めっき加工



平成20年9月第2四半期

決算概要



株式会社 大谷工業

OTANI KOGYO CO., LTD.

平成20年9月第2四半期の総括

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した金融不安が世界規模で拡大し、為替市場の混乱、株価下落と景気の後退が加速しつつあります。また資源価格の高騰に伴う消費者の購買意欲低迷により景気の不透明感がさらに強まりました。

当社もこの影響を受け原材料の高騰、物流費の上昇など原価高の要因により収益を圧迫しつつあります。このような状況下、製造工程をさらに見直し生産性の向上を図ることで原価低減に努めてまいりました。

事業分野別の詳細は品目別売上高のページをご参照ください。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高2,692百万円(前年同期比318百万円増)営業利益123百万円(同35百万円増)経常利益144百万円(同33百万円増)四半期純利益87百万円(同11百万円増)と前年同期比増収増益となりました。引き続き総資産の効率的な運営を図ってまいります。

損益計算書(非連結)

(単位:百万円)

	20年9月第2四半期 (累計期間)	19年9月中間期	前期比	備考
売上高	2,692	2,374	13.4%	電力・通信鉄塔好調、建築基準法改正着工遅延物件回復傾向
売上原価	2,150	1,876	14.6%	材料値上げも売上総利益率前年並み
一般管理費	418	409	2.2%	
営業利益	123	88	40.8%	
営業外収益	36	41	-11.7%	
営業外費用	16	18	-12.2%	
経常利益	144	111	30.0%	
特別利益	1.5	0.1	-	
特別損失	1.3	3.4	-	
第2四半期(累計)純利益	87	75	15.7%	

貸借対照表(非連結)

(単位：百万円)

	20年9月第2四半期 (累計期間)	19年9月中間期	増減	備考
流動資産	2,849	2,772	77	売上増加による運転資金増加
固定資産	1,524	1,504	20	リース取引の会計基準早期導入103百万円増加
資産合計	4,374	4,277	97	

流動負債	2,358	2,188	170	買掛債務増加
固定負債	879	1,102	-223	リース取引の会計基準早期導入103百万円増加
負債合計	3,238	3,290	-52	借入金返済260百万円

資本金	655	655	0	
資本剰余金	221	221	0	
利益剰余金	242	80	162	剰余金配当17百万円
純資産合計	1,136	986	150	

キャッシュ・フロー計算書(非連結)

(単位：百万円)	20年9月第2四半期 (累計期間)	19年9月中間期	比較増減	備考
営業活動による キャッシュ・フロー	133	115	18	税引前四半期純利益144百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 40	△ 34	△ 6	
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 61	△ 30	△ 31	配当金支払17百万円
現金及び現金同等物の 増加額	31	51	△ 20	
現金及び現金同等物の 期首残高	441	348	93	
現金及び現金同等物の 中間期末残高	473	399	74	

品目別売上高

(単位：百万円)

セグメント	20年9月第2四半期 (累計期間)		19年9月中間期		比較増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	増減率
架線金物	1,354	50.3%	1,359	57.3%	△4	-0.3%
鉄塔・鉄構	634	23.6%	428	18.0%	206	48.3%
スタッド	654	24.3%	537	22.6%	117	21.9%
その他	47	1.8%	49	2.1%	△2	-4.0%
合計	2,692	100.0%	2,374	100.0%	318	13.4%

架線金物	改善提案等で受注高維持
鉄塔・鉄構	電力・通信鉄塔好調
スタッド	建築基準法改正に伴う着工遅延物件、回復傾向
その他	

平成20年9月第2四半期

業績予想



株式会社 大谷工業

OTANI KOGYO CO., LTD.

平成21年3月期 業績予想(非連結)

(単位：百万円)	21年3月期予想	20年3月期実績	増減
売上高	5,500	5,257	4.6%
経常利益	260	263	-1.5%
当期純利益	170	167	1.4%
EPS (円)	19円31銭	19円06銭	-
ROE (%)	-	16.8	-

経営方針

・会社の経営の基本方針

当社は昭和21年の創業以来、豊富な知識・高度な技術で鉄に生命の息吹を与え「豊かな社会を築きあげる」ことを理念しております。本邦において基幹インフラ(電力・通信業等)の一翼を担っているとの矜持を忘れず、固有の技術と最新テクノロジーの融和をはかり「安心・安全・高品質」な製品をお届けする「社会に継続していく意義のある企業」として貢献し続けたいと念願しております。

・目標とする経営指標

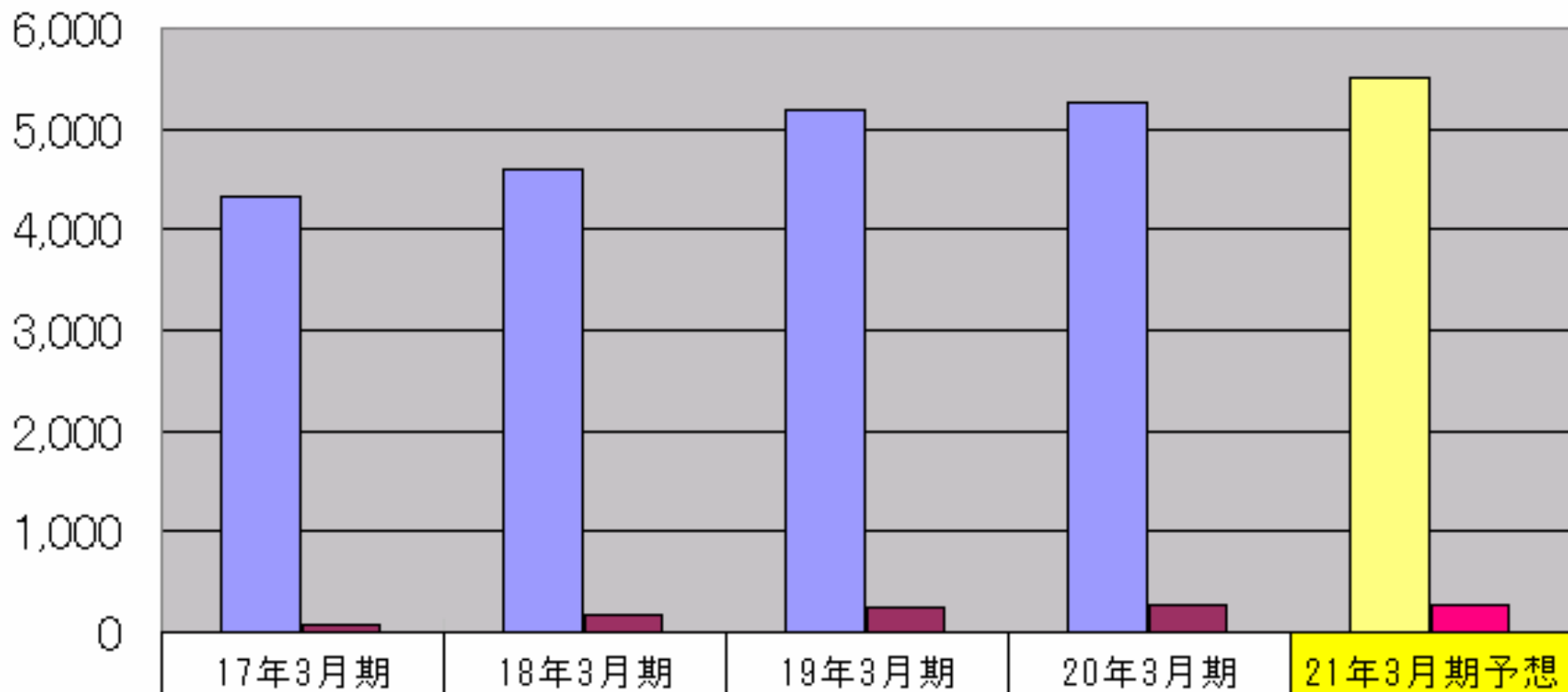
当社は、每期、安定的な利益を継続的に確保するとともに、株主利益の重視と経営の効率化の視点から、ROA(総資本利益率)並びにROE(株主資本利益率)の向上に努力してまいります。

・中長期的な会社の経営戦略

既存の架線金物・鉄塔に次ぐ製品を開発し、架線金物業界において専門性・独自性を発揮するリーディングカンパニーを目指します。

売上高・経常利益の推移(非連結)

(単位：百万円)



売上高

4,325

4,606

5,184

5,257

5,500

経常利益

78

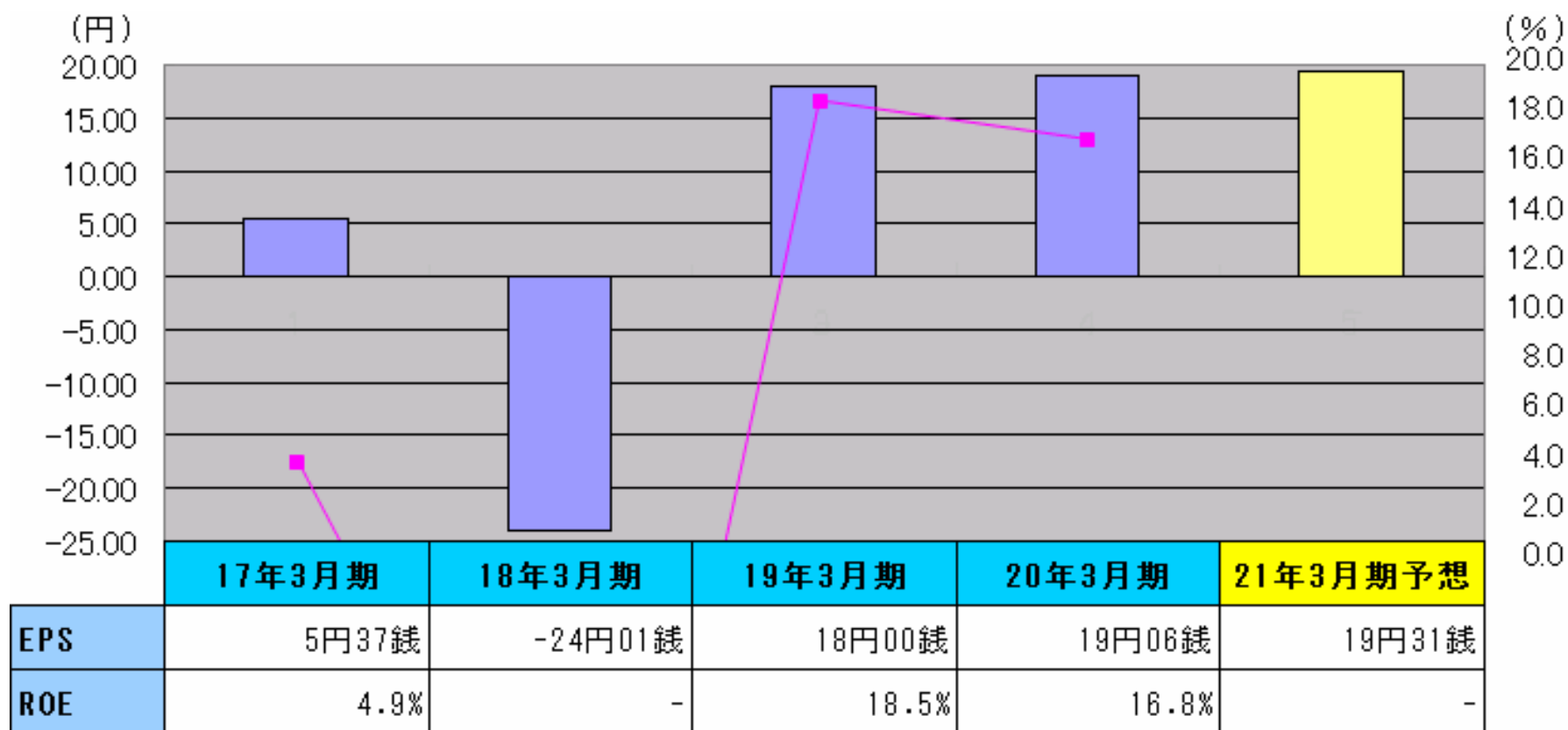
161

242

263

260

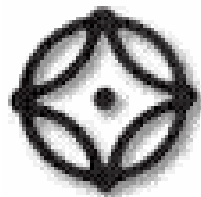
EPS・ROEの推移(非連結)



EPS = 1株当たり当期純利益

ROE = 自己資本利益率

本資料に関するお問い合わせ



株式会社 大谷工業

総務チーム

TEL : (03) 3494-3731

E-mail: somu@otanikogyo.com